科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 27 年 5 月 30 日現在

機関番号: 17102 研究種目: 基盤研究(B) 研究期間: 2012~2014

課題番号: 24350029

研究課題名(和文)多電子貯蔵能を有する人工光合成分子システムの開発

研究課題名(英文)Development of photosynthetic molecular systems having multi-electron storage

properties

研究代表者

酒井 健(Sakai, Ken)

九州大学・理学(系)研究科(研究院)・教授

研究者番号:30235105

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 14,100,000円

研究成果の概要(和文):天然の光合成では、多電子の貯蔵を利用した高度な電子移動システムが構築されている。本研究では、ビオローゲンなどの多電子貯蔵部位を有する、金属錯体を基盤とした人工光合成分子デバイスを開発することに成功した。また、それらの分子デバイスが、光化学的な水素生成反応に対し優れた触媒特性を示すことを明らかにした。さらに、光化学的な酸素発生反応に対し優れた触媒特性を示す金属錯体触媒を開発することにも成功した。

研究成果の概要(英文): Natural photosynthesis is composed of highly efficient molecular systems for electron transfer reactions, using multi-electron storage. In this study, we could succeed in developing new photosynthetic molecular systems having multi-electron storage moieties, based on coordination compounds. These molecular devices were found to show efficient catalytic properties for photodriven hydrogen evolution from water. In addition, we could find new metal complexes promoting photochemical oxygen evolution from water with high catalytic efficiencies.

研究分野: 錯体化学

キーワード: 光化学 人工光合成 錯体触媒 白金錯体 ルテニウム錯体 水素発生 酸素発生 光エネルギー変換

1. 研究開始当初の背景

研究者代表者らは長年にわたり、 $Ru(bpy)_3^2+/MV^2+/Pt(II)$ 錯体 ($MV^2+=$ メチルビオローゲン) からなる光水素生成システムを高度に組織化し、天然の光合成に匹敵する人工光合成デバイスを構築することを目指し研究を行ってきた。申請者らは、最近の研究により、ついに長年掲げてきた達成目標の一つであるビオローゲン集積体を基盤とした多電子貯蔵系の構築に成功した。具体的には、得られたビオローゲン集積体は前例のない優れた多電子貯蔵機能をもつことが判明した。

2. 研究の目的

本課題では、研究開始当初の背景で触れた、 多電子貯蔵系とその類縁体を基盤とした新 たな高度に組織化した多電子貯蔵型光水素 発生デバイスの合成と機能評価を行うこと を目的とした。また、本課題では、水素発生 触媒サイトのみならず、酸素発生触媒サイト を付与した水の完全分解を達成する人工光 合成デバイスの開発も試みた。

3. 研究の方法

本研究課題では、設計した人工光合成デバイスを合成しその後そのデバイスの触媒機能の評価を行うという手順で行った。なお、本研究で用いた、光増感剤ユニットについては、水の可視光分解反応の光触媒として有用であることが知られている Ru(bpy)。²⁺誘導体を主に用いた。また、合成した触媒の機能評価については、研究代表者らが独自に開発した全自動水素/酸素ガス定量システムを用いた。

4. 研究成果

(1) 電子貯蔵サイトとしてのビオローゲン (MV²+) を多数導入したマルチビオローゲン ユニットを合成し、高効率な光電子貯蔵デバ イスを構築することを目的とし研究を展開 した。その結果、以下に述べる幾つかの価値 ある研究成果を得た。ビオローゲン種を単一 の光増感サイトであるトリス(ビピリジン) ルテニウム(II)類縁体と共有結合した多電 子貯蔵型光増感剤について、 $[Ru(bpy)_2(4, 4'-MV4)]^{10+}$ 及 [Ru(4,4'-MV4)₃]²⁶⁺ 錯 体 に 加 え [Ru(bpy)(4,4'-MV4)₂]²⁶⁺の合成に成功し、そ の光電子貯蔵能を評価した。その結果、これ ら全ての錯体について光多電子貯蔵が促進 されることが明らかになった。また、犠牲還 元試薬及び水素生成触媒としての白金錯体 共存下で光照射を行ったところ光水素生成 反応が効率良く進行することが明らかとな った。次に、これら3錯体の機能をより詳細 に比較するために、ナノ秒過渡吸収スペクト

ルの測定を行い電荷分離状態の寿命につい て評価した。その結果、電子受容サイトの増 加と共に寿命が延びる事が明らかとなった。 この結果は、電子受容サイト間の電子マイグ レーション効果により電荷分離状態の長寿 命化が達成できたことを明確に示している。 更に、犠牲還元試薬を含む酢酸緩衝溶液中で 同様の測定を試みたところ、いずれの錯体に おいても電荷分離状態の劇的な長寿命化が 確認された。この結果は、犠牲還元試薬によ る電荷分離種の中心金属への電子注入が逆 電子移動よりも速く起こる事を示唆してい る。以上、本課題においては、電子受容サイ ト間の電子マイグレーション効果により逆 電子移動を抑制することで、高効率な光電子 貯蔵デバイスを構築することに成功した。

(2) 研究代表者らは以前、RuPt 二核錯体や [Pt(terpyridine)Cl] *及びその誘導体が単一 分子光水素生成デバイスとして活性を示す ことを見出している、そこで、より高活性な 光水素生成触媒の開発を目的としてメチル ビオローゲン多量体を導入したPtCl2(bpy)誘 導体を合成し、その機能評価を行った。犠牲 還元試薬 EDTA、及び 0.1 M NaCl を含む 0.1 M 酢酸緩衝溶液中 (pH = 5.0) において錯体触 媒存在下において可視光照射を行ったとこ ろ、これまでよりも高い触媒回転数(14~27) で水素生成が確認された。更に、光水素生成 速度の EDTA 濃度依存性を測定したところ、 ミカエリス-メンテンの式に従う挙動が観測 された。この結果から、本錯体は EDTA と会 合体を形成し、光水素生成反応を進行させる ことが明らかとなった。更に、これらの錯体 が真に分子性触媒として作用しているか否 かを判断するため、動的光散乱法(DLS)に ついて検討した。本錯体に関して5時間の光 水素生成反応中において自己相関関数の上 昇は全く見られず、散乱強度の増加も観測さ れなかった。この結果は、白金コロイド等の 粒子形成は光反応中に起こっておらず、今回 活性を評価した錯体が分子性触媒として機 能していることを示している。また、RuPt 二 核錯体の光水素生成触媒機能については、ピ コ秒領域の発光減衰曲線と過渡吸収スペク トルの測定から、分子内電子移動の時定数を 決定すると同時に分子内電子移動消光(酸化 的消光)が RuPt2+とイオン対を形成した EDTA 二価アニオンからの電子移動消光 (還元 的消光)と競合して起こることを明らかにし た。さらに興味深いことに、この研究では、 ピコ秒時間領域に生じる過渡種の一部が少 なくともナノ秒時間領域まで延命する長寿 命種であり、その長寿命種が実質的に水素生 成触媒過程に関与する可能性が示された。ま た、二段階光励起 (Z-Scheme) 型の単一分子 光水素生成触媒である、ターピリジン骨格を 有する 白 金錯体 (PV²⁺) にビオローゲンを 複数導入した新規錯体 PVCn (n=3-6) を合成 し、その光水素生成触媒機能についても 評

価した。EDTA (30 mM) と 触媒 PVCn (0.1 mM) を含む 0.1M 酢酸緩衝溶液 (pH = 5) に 300W の Xe 灯 (300-550 nm) 12 時間照射したところ、各種の PVCn は PV^{2+} よりも格段に高い水素生成触媒活性を示すことを見出した。

(3)酸素発生触媒開発として、大環状効果 による錯体耐久性の向上が期待できる水溶 性コバルトポルフィリン錯体(CoTMPyP、 CoTCPP、及び CoTPPS) に着目し、その酸素発 生触媒機能の評価を行った。しかしながらこ れらの錯体は、共存する光増感剤と発生した 酸素分子とのエネルギー移動消光により生 成した、一重項酸素(102)の攻撃によって、分 子性の開環生成物を与えることが明らかと なった。そこで、102による攻撃を立体的に阻 害することを目的とし、アリール(Ar)基の 2 位及び6 位へフッ素を導入したCoFPSを合成 し、その酸素発生触媒機能、耐久性、触媒反 応機構について評価した。水溶性コバルトポ ルフィリン錯体 CoFPS を光増感剤 Ru(bpy)₃²⁺ 及び犠牲酸化剤 $Na_2S_2O_8$ を含む pH = 9 の 0.1 M ホウ酸緩衝溶液に溶解した後、300 W キセノ ン灯を照射し、発生する酸素をガスクロマト グラフィーによって定量した。その結果、 CoFPS の最高の触媒回転数(TON) は 570、触 媒回転頻度(TOF)は 1.1 s⁻¹であった。TOF が 1.0 s⁻¹ を超えるものは前例が少なく、CoFPS が極めて高活性な触媒に分類されることが 分かった。また、酸素発生初速度の触媒濃度 依存性を調べた結果、酸素発生初速度は触媒 濃度に対して一次であり、酸-塩基機構によ る酸素-酸素結合過程が律速であると判明 した。しかも、耐久性評価に関して、CoFPS はフッ素導入の効果により CoTPPS と比べて 明らかな向上がみられた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

〔雑誌論文〕(計19件)

- 1. Kosei Yamauchi and <u>Ken Sakai</u>, "A tricarboxylated PtCl(terpyridine) derivative exhibiting pH-dependent photocatalytic activity for H2 evolution from water", Dalton Trans., 查読有, 44, 2015, 8685-8696, DOI: 10.1039/C5DT00425J
- 2. Takashi Nakazono, Alexander Rene Parent and <u>Ken Sakai</u>, "Improving Singlet Oxygen Resistance during Photochemical Water Oxidation by Cobalt Porphyrin Catalysts", Chem. Eur. J, 査読有, 21, 2015, 6723-6726,

DOI: 10.1002/chem.201500716

3. Masaki Yoshida, Mio Kondo, Toshikazu Nakamura, <u>Ken Sakai</u> and Shigeyuki Masaoka, "Three Distinct Redox States of an Oxo-Bridged Dinuclear Ruthenium Complex", Angew. Chem. Int. Ed., 查読有, 53, 2014, 11519-11523,

DOI: 10.1002/anie.201406443

- 4. Alexander Rene Parent and <u>Ken Sakai</u>, "Progress in Base-Metal Water Oxidation Catalysis", ChemSusChem, 査 読有, 7, 2014, 2070-2080, DOI: 10.1002/cssc.201402322
- 5. Ken Kawano, Kosei Yamauchi and <u>Ken Sakai</u>, "A Cobalt-NHC Complex as an Improved Catalyst for Photochemical Hydrogen Evolution from Water", Chem. Commun.,查読有,50,2014, 9872-9875,

DOI: 10.1039/C4CC03493G

- 6. Alexander Rene Parent, Takashi Nakazono, Shu Lin, Satoshi Utsunomiya and <u>Ken Sakai</u>, "Mechanism of Water Oxidation by Non-Heme Iron Catalysts when Driven with Sodium Periodate", Dalton Trans., 查読有, 43, 2014, 12501-12513, DOI: 10.1039/C4DT01188K
- 7. Takumi Nagashima, Takuya Nakabayashi, Takashi Suzuki, Katsuhiko Kanaizuka, Hiroaki Ozawa, Yu-Wu Zhong, Shigeyuki Masaoka, <u>Ken Sakai</u> and Masa-aki Haga, "Tuning of Metal-Metal Interactions in Mixed-Valence States of Cyclometalated Dinuclear Ruthenium and Osmium Complexes Bearing Tetrapyridylpyrazine or -benzene", Organometallics, 查読有, 33, 2014, 4893-4904, DOI: 10.1021/cm500142t

DOI: 10.1021/om500142t

8. Hoda A. El-Ghamry, Shigeyuki Masaoka and <u>Ken Sakai</u>, "Hydrogen-bonded frameworks of propylenediamine-N, N'-diacetic acid Pt(II) complexes, synthesis, structural characterization and antitumor activity", J. Coord. Chem., 查読有, 67, 2014, 943-955,

DOI: 10.1080/00958972.2014.900550

9. Kyoji Kitamoto and <u>Ken Sakai</u>, "Pigment-Acceptor-Catalyst Triads for Photochemical Hydrogen Evolution", Angew. Chem., Int. Ed., 查読有, 53, 2014, 4618-4622,

DOI: 10.1002/anie.201311209

10. Chettiyam Veettil Suneesh, Bijitha Balan, Hironobu Ozawa, Yuki Nakamura, Tetsuro Katayama, Masayasu Muramatsu, Yutaka Nagasawa, Hiroshi Miyasaka and Ken Sakai, "Mechanistic Studies of Photoinduced Intramolecular Intermolecular Electron Transfer RuPt-centred Processes in Photo-hydrogen-evolving Molecular

- Devices", Phys. Chem. Chem. Phys., 査 読有, 16, 2014, 1607-1616, DOI: 10.1039/C3CP54630F
- 11. K. El-Baradie, R. El-Sharkawy, H. El-Ghamry, and K. Sakai, "Synthesis and characterization of Cu(II), Co(II) and Ni(II) complexes of a number of sulfadrug azodyes and their application for wastewater treatment", Spectrochim. Acta, Part A, 查読有, 121, 2014, 180-187, DOI: 10.1016/j. saa. 2013.09.070
- 12. Dong Ryeol Whang, Ken Sakai and Soo Park, "Highly Efficient Young Photocatalytic Water Reduction with Robust Iridium(III) Photosensitizers Containing Arylsilyl Substituents", Angew. Chem. Int. Ed., 查読有, 44, 2013, 11612-11615,

DOI: 10.1002/anie.201305684

13. Takashi Nakazono, Alexander Rene Parent, and <u>Ken Sakai</u>, "Cobalt Porphyrins as Catalysts Homogeneous for Water Oxidation", Chem. Commun., 查読有, 49, 2013, 6325-6327,

DOI: 10.1039/C3CC43031F

- 14. Makoto Ebine, Mitsunori Kanemoto, Yoshiyuki Manabe, Yosuke Konno, <u>Ken</u> Sakai, Nobuaki Matsumori, Michio Murata, "Synthesis and and Tohru Oishi, Structure Revision of the C43-C67 Part of Amphidinol 3", Org. Lett., 查読有, 15, 2013, 2846-2849, DOI: 10.1021/o1401176a
- 15. Masayuki Kobayashi, Didier Savard, Andrew R. Geisheimer, Ken Sakai and Daniel B. Leznoff, "Heterobimetallic Coordination Polymers Based on the [Pt (SeCN) 4]2-[Pt (SCN) 4] 2and Building Blocks", Inorg. Chem., 査読有, 52, 2013, 4842-4852, DOI: 10.1021/ic302360b
- 16. Masaya Okamura, Masaki Yoshida, Reiko Kuga, <u>Ken Sakai</u>, Mio Kondo, "A Mononuclear Shigeyuki Masaoka, Ruthenium Complex Showing Multiple Proton-Coupled Electron Transfer toward Multi-electron Transfer Reactions", Dalton Trans., 查読有, 41, 2012, 13081-13089,

DOI: 10.1039/C2DT30773A

17. Masayuki Kobayashi, Shigeyuki Masaoka, and <u>Ken Sakai</u>, "Photoinduced Hydrogen Evolution from Water Based on a Z-Scheme Photosynthesis by a Simple Platinum (II) Terpyridine Derivative", Angew. Chem. Int. Ed., 查読有, 51, 2012, 7431-7434,

- DOI: 10.1002/anie.201202720
- 18. Ken Sakai, "Hitoshi Sakai (1930-2008)", Applied Geochemistry, 查読有, 27, 2012, 1681-1687, DOI: 10.1016/j. apgeochem. 2012. 02. 004
- 19. Hoda A. El-Ghamry, <u>Ken Sakai</u>, Shigeyuki Masaoka, Kamal Y. El-Baradie, Raafat M. Issa, "Preparation, Characterization, Biological Activity and 3D Molecular Modeling of Mn(II), Co(II), Ni(II), Cu(II), Pd(II) and Ru(III) Complexes of Some Sulfadrug Schiff Bases" Chin. J. Chem., 查読有, 30, 2012, 881-890,

DOI: 10.1002/cjoc.201280024

〔学会発表〕(計185件)

- <u>Ken Sakai</u>, "Molecular Devices for 1. Photodriven Water-Splitting Reactions", 13th Eurasia Conference on Chemical Science, Indian Institute of Bangalore, Science, 2014. 12. 14-18
- "Photosynthetic Molecular Ken Sakai, Devices for Hydrogen Generation from Water", Post-Symposium of ICCC-41, Nanyang Technological University, Nanyang, Singapore, 2014.7.25-26
- "Molecular Photocatalysis Ken Sakai, For Water Splitting Reactions", 41st International Conference Coordination Chemistry (ICCC-41). Suntec Singapore Convention Exhibition Centre, Suntec, Singapore, 2014. 7. 21-25
- 4. <u>Ken Sakai</u>, "Transition metal complexes for water splitting reactions", the 97th Canadian Chemistry Conference and Exhibition in Vancouver, British Columbia, Vancouver, Canada, 2014. 6. 1-5
- "Molecular Catalysts and Ken Sakai, Devices Driving Photoinduced Water Reactions", Splitting the Canadian Chemistry Conference and Exhibition in Vancouver, British Columbia, Vancouver, Canada, 2014. 6. 1-5
- <u>Ken Sakai</u>, "Artificial Photosynthesis based on Molecular Photocatalysis of Water Splitting to Dihydrogen and Dioxygen.", Nanomaterials Alternative Energy Applications, UBC, Vancouver, Canada, 2014. 5. 31-6. 1
- "Molecular Catalysts and 7. <u>Ken Sakai</u>, Devices Driving Photoinduced Water Splitting Reactions", E-MRS 2014 SPRING MEETING, Congress Center - Lille, Lille, France, 2014.5.26-30

- 8. <u>Ken Sakai</u>, "Molecular Catalysts and Devices for Photoinduced Water Splitting", Scottish Dalton Meeting, St. Andrews, UK, 2014.3.19
- Ken Sakai, "Molecular Catalysts and Devices for Photoinduced Water Splitting", European Symposium on Current Challenges in Supramolecular Photocatalytic Water Splitting, Rosensäle, Friedrich Schiller University, Jena, Germany, 2014. 3. 9-13
- 10. Ken Sakai, "MOLECULAR CATALYSTS AND FOR PHOTOINDUCED DEVICES WATER SPLITTING" Molecules the and Materials for Artificial Photosynthesis Conference, Fiesta Americana Condesa, Cancun, Mexico, 2014. 2. 6-9
- 11. Ken Sakai, "Photoinduced Hydrogen Evolution from Water using Ru(II), Pt(II)—Centered Molecular Photocatalysts", 4th Asian Conference on Coordination Chemistry (ACCC4), International Convention Center, Jeju, Korea, 2013.11.2-4
- 12. Ken Sakai, "Photoinduced Hydrogen Evolution from Water using Pt(II), Ru(II)-Centered Molecular Photocatalysts", 20th International Symposium on the Photophysicsand Photochemistry of Coordination Compounds (ISPPCC), Traverse City, USA, 2013. 7. 7-11
- 13. Ken Sakai, "Photocatalysis of molecular systems in water splitting reactions", 245th ACS National Meeting & Exposition, New Orleans, USA, 2013. 4.7-11
- 14. <u>Ken Sakai</u>, "Hydrogen Evolution from Water Catalyzed by Pt(II)-based Molecular Systems", Germany-Japan Bilateral Meeting on Coordination Programming, Muenster, Germany, 2012. 10. 25-27
- 15. <u>Ken Sakai</u>, "Water Splitting Reactions Using Transition-Metal-Based Molecular Systems", 3rd International Symposium on Solar Cells and Solar Fuels, Dalian, China, 2012.9.8-10
- 16. Ken Sakai, "Catalysis of Metal Complexes in Water Splitting Reactions", 2nd International Conference on Molecular and Functional Catalysis (ICMFC-2), Biopolis, Singapore, 2012.7.30-31
- 17. <u>Ken Sakai</u>, "Molecular Catalysis for Solar Light-induced Water Splitting Reactions", 2nd International Biosakaiinorganic Chemistry Conference on Small Molecule Activation by Heme and

- Nonheme Enzymes and Models, Ewha Womans University, Seoul, Korea, 2012.6.30
- 18. <u>Ken Sakai</u>, "Water Splitting Reactions Catalyzed by Transition Metal Complexes", Symposium on Solar Energy Conversion, Universite de Montreal, Montreal, Canada, 2012.5.25
- 19. <u>Ken Sakai</u>, "Water Splitting Reactions Catalyzed by Transition Metal Complexes", 95th Canadian Chemistry Conference and Exhibition (CSC 2012), Calgary TELUS Convention Centre, Calgary, Alberta, Canada, 2012.5.26-30
- 20. Ken Sakai, "Molecular Catalysis for Solar Light-induced Water Splitting Reactions towards Development of Artificial Photosynthesis", 12th EURASIA CONFERENCE ON CHEMICAL SCIENCES -EuAsC2C-1, Corfu Chandris Hotel, Corfu, Greece, 2012. 4. 16-21

[図書] (計7件)

- 1. 坪ノ内優太、<u>酒井健</u>、「ルテニウム錯体を 触媒とする水からの酸素発生反応」 光ア ライアンス 2014年07月 号 特集:植物の 光合成に学ぶ~人工光合成の最新動向~、 日本工業出版、2014、6 ページ
- 2. 北本享司、 <u>酒井</u> 健、「水からの光水素生成反応を触媒する単一分子光水素生成デバイスの開発」特集 人工光合成に向けた近年のアプローチ Vol. 56 No. 4、一般社団法人触媒学会、2014、6ページ
- 3. <u>酒井 健</u>、「均一系白金錯体による水からの水素生成反応」 人工光合成ーシステム構築に向けての最新技術動向と展望、シーエムシー出版、2013、17ページ
- 4. 中薗孝志、<u>酒井 健</u>、「金属錯体触媒による 新規な酸素発生反応」 人工光合成ーシス テム構築に向けての最新技術動向と展望、 シーエムシー出版、2013、18ページ
- 5. <u>酒井 健</u>、「人工光合成を指向した光分子デバイスの開発」 化学工業第65巻第3号、化学工業社、2014、6ページ
- 6. Catherine E. Housecroft・Alan G. Sharpe 著、巽和行・西原寛・穐田宗隆・<u>酒井 健</u> 監訳、ハウスクロフト無機化学(上)、東京化学同人、2012、561 ページ
- 7. Catherine E. Housecroft・Alan G. Sharpe 著、巽和行・西原寛・穐田宗隆・<u>酒井 健</u> 監訳、ハウスクロフト無機化学(下)、東京化学同人、2012、499 ページ

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

名称: 発明者: 権利者: 種類:

```
番号:
出願年月日:
国内外の別:
○取得状況(計0件)
名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:
[その他]
ホームページ等
http://www.scc.kyushu-u.ac.jp/Sakutai/
6. 研究組織
(1)研究代表者
 酒井 健 (SAKAI, Ken)
 九州大学·大学院理学研究院·教授
 研究者番号:30235105
(2)研究分担者
         ( )
 研究者番号:
(3)連携研究者
         ( )
 研究者番号:
```